

2015（第2回）東海防衛セミナー 「防衛装備庁と研究開発とものづくり」

平成27年10月26日（月）に名古屋商工会議所との共催により、同商工会議所大ホールにおいて「2015（第2回）東海防衛セミナー」を開催しました。

同日15時30分に開会したセミナーでは、主催者の東海防衛支局から本橋克広支局長、共催者の名古屋商工会議所から細谷孝利専務理事が開会の挨拶を行った後、第一部は堀地部長が「防衛装備庁の概要と装備政策について」と題して、10月1日発足した防衛装備庁の組織と装備庁内各部の方針や課題、それを踏まえて具体的な施策、また、防衛装備品の効率的な取得や国際的な防衛装備・技術協力の推進、また自衛隊の運用を支える調達・維持にかかる諸施策の推進などについて説明しました。

第二部は外園防衛技監が「防衛装備品の研究開発について」と題して、防衛装備庁における防衛装備品の研究開発の意義と体制について、戦略的な研究開発の一例として将来戦闘機に関する研究、諸外国との技術交流などについて説明しました。

定員450名の会場は来場者によりほぼ満席となり、期待の膨らみを感じられ、両講師による最新の動向や情報を豊富に盛り込みながら、多数の図表を使っての丁寧でわかりやすい説明に会場を埋める聴衆は熱心に聴き入っていました。



講演中の堀地部長



講演中の外園防衛技監



来場者で満員となった会場

また、会場のロビーには、防衛装備庁と航空自衛隊岐阜基地の協力により展示した先進技術実証機や次期輸送機（XC-2）、F-2、F-15J、F-35Aの模型を多くの来場者が興味深そうに見入っていました。

セミナー終了後、来場者からは「防衛装備庁の任務や目指す方向などがよく分かった」、「民間の技術をどのように防衛装備品に適合させていくか研究の必要性を感じた」などの声が寄せられました。

当支局としては、防衛省の諸施策や自衛隊の活動等について、多くの皆様に御理解を深めていただけるよう、今後も防衛セミナーを開催してまいります。